

小学生プログラミング県大会

最優秀賞に船越君（姫路市立
手柄小6年）

小学生がコンピュータープログラミングの作品やアイデアを競う「全国選抜小学生プログラミング兵庫県大会」（神戸新聞社主催）が

3日、神戸市東灘区の神戸ファッション美術館オルビスホールであった。個人・団体の計24組が持続可能な開発目標（SDGs）をテーマにごみ拾いやクイズなどのゲームを作り、紹介した。

大会は、2020年度から小学校でプログラミング教育が必修化されたことを受け、同年から開催。関西

学院大学の巳波弘佳副学長ら4人が審査員を務め、参加者は各3分で作品の内容や苦労話などを説明した。

最優秀賞には、バーチャル世界での姫路で、ミニゲームやクイズを通してSDGsについて学ぶ作品を作った姫路市立手柄小6年の船越透真君（12）が選ばれた。船越君は「ゲーム中に出てくる写真は自分で撮影した。試行錯誤しながら完成させるのは楽しかった」と笑顔を見せた。来年3月に東京で開かれる全国大会に出場する。（安藤真子）

ほかの受賞者は次の通り。（敬称略）

優秀賞Ⅱ安岡仁（神戸市立垂水小6）▽大栄環境賞Ⅱカジムラヒナキ（神戸市立明親小5・同住吉小5）▽みなど銀行賞Ⅱ山根聡真（播磨町立播磨南小6）▽住友生命賞Ⅱ志手原shining（三田市立志手原小6）▽ミックウエア賞Ⅱ横山小梅（加西市立賀茂小6）▽美樹工業賞Ⅱ中安右京（姫路市立飾磨小6）



自由な発想で作品を作った入賞者Ⅱ神戸市東灘区向洋町中2